

ニセコ オートルート

導場修爾

1995. 3/19～21 NOMAD カット 白石・高山・タケミ
岩内スキー場—岩内岳—日国内岳—前日国内岳—新見温泉

3/19(木)

晴後曇

リフト三本乗り継ぎ 890m 地点に着く。スキー場は、広大で、スキーマの姿もよく北海道らしい。真下に岩内川街、日本海が見える。いよいよ、三百間のツアードの出発。スキーにシール・アイゼンを着ける。クラフトした急斜面をキックターンで高度をかせぐ。アイゼンが良くきき、滑落の不安は無い。一回休憩して頂上に着く。強風で、雪も尾根で、緊張する。シールをはずし始めかりかりの尾根を二、三十メートル横滑りで降る。斜度も緩くなり雪もやわらかくなるのでカットに続けて滑り汗をかき日国内川の源流の平原 920m 地点に着き休憩する。日国内岳の登頂のためシール・スキー・アイゼンを着ける。と、からとせなくスノーモビルのエンジンの音が聞こえてきた。十五台くらいの団体で走り去った。始め緩斜面が次第に急になり、天候も降り坂で頂上に着いた時は、強風と吹雪で視界は五六メートル位だ。フードかハッパを着たてて、一段高くなっているシカフラの頂上に、つば足で登る。展望を楽しむことはできない。シールをはずしホットマットの中を前の人を見失うのが、もうクラフトし斜面を踏む。前日国内岳は頂上には登らず右の山腹をトランポスする。この辺でふと視界が開け天候も良くなり新見峠へ林道はるか下の谷に新見温泉の屋根が見えた。広大な斜面で樹木も少なく新雪が五六センチメートル積もっていた。一、二月の新雪がどうには溶けないか何回か休んで峠へ林道に滑り降りる。ここでもスノーモビルのあとが着いている。おとは、林道をショットカットし温泉に着く。雲天風呂に入りビールで乾杯し一日目を終わる。

コースタイム

リフト終点 10:20～10:30 — 岩内岳 12:00 — 日国内岳 13:00
— 前日国内岳下 14:30 — 新見峠 15:00 — 温泉 15:30

3/20 曇、800m以上部カスで視界不良

新見温泉—白樺山—シカケ岳—チセヌアリ—ニトヌアリ
—五色温泉

六時、シール・スキーアイゼンを着けて出発。白樺山の頂上も
一見する。ダケカンバの間を登行する。892mの尾根にでる
と無立木の斜面だ。天候が悪くなり、カスで視界が悪くなる。
回りの景色は、全然見えない。前の人を見失なわないようではす
ら登行する。頂上に着きシールをはずし、クラフトした斜面を
慎重に滑る。標高が低くなると少し視界が良くなる。再びシール
スキーアイゼンを着けシカケ岳めざして登行する。ここも視界
不良で地図を見ても現在位置を正確につかめない。頂上に着
き、シールをはずす。始め急斜面は、横すべりで下降し高度を下げる。
滑り降りるとカスの中からチセヌアリスキーフィールドが右下
に見えた。シールに、スキーアイゼンを着けチセヌアリの頂上に向か
て登行する。250mの高度の急斜面をひたすら登る。この山も
視界不良で風も強い。頂上でシールをはずし、滑る。視界不良で
クラフトしているので急斜面を慎重に滑る。高度がさがると多少視界
が良くなる。道路に滑り降りる。シールを着け休憩していると、自衛
隊の人たち。雪上訓練で雪洞を掘っている。

いよいよ最後のニトヌアリの登行だ。始めは視界が少しある
が登行するにいたって風が強くなり全高度も急になる。クラフトし
ていて急斜面の登行には、滑落しないようストップを確定してい
て登る。ようやく頂上に着く。雪質が良くなれば少しシールをつ
けてまた下降する。慎重に休みながら滑る。カットの白石さんは
地図を見ながら雪に斜滑降し降ります向に歩いている。

ところが地点の平地に着くとロオアツリが姿を表され視界も良
くならぬ。こで十五人がスノーモーゲルで走っていく。シールを着
けず登る。今日の宿五色温泉が見えた。ひと汗で温泉に着
いた。十一時間ホットアクトの登下降は久しぶりだ。

コースタイム

出発 6:00 → 白樺山 → ミナトテラス → チセスアリ →
ニトアリ → 五色温泉

12:30 晴。1000m以上視界不良

五色温泉 → ニセコアンナアリ → ニセコ国際ひらふスキー場

今日は最後でニセコ国際ひらふスキー場に降る日だ。
四五人足にまわかけてきたくういで元気だ。七時宿のすぐ前で
シール・スキーアイゼンをつける。すぐ右の斜斜面へ尾根を登
行する。右や左やバンバの途中を登行する。次第に斜度も
急になり無立木の斜面になる。今日もガスで視界が悪い。

途中、スキーアイゼンを着ける。左谷でキーの斜登行が続く。
ぐがこの斜度が急にあまりキツカタンで高度をあげる。雪質が良ぬ
斜度の緩い尾根に着く。二ビハシボの着いた標式があり触
り沂いことを知る。すぐ避難小屋に着いた。雪の入った中にスリ
休憩 ビールを回し飲みて完走を祝った。かすかにスキー場へ
音楽が聞えてきた。危険な辺には、竹の棒が立っていた。

頂上からスキー場までスキーリングで整地しており、思いきりスキー
場に滑りこむ。かくへ中から、ややや、姿が見えた。二、三回
集合して、スキー場のレストランに入り三日間のスキーを
無事終了した。ビールで乾杯、山田温泉に入り札幌に
出発した。

(馬場記)

コースタイム

五色温泉 6:00 → 頂上 12:00 → スキー場着 12:30

卷二



1/2.5万 地図、岩内、千セヌヌ^{アリ}、ニセコアヌヌ^{アリ}

